



沖縄 久米島  
Okinawa Kumejima

これは、普通の旅とはちょっとちがう、  
新しい自分と世界に出会う旅。

旅の途中で誰かのお手伝いをしたり、  
その土地の課題と向き合ったり。  
自由時間は、仲間と自然と、思いっきり遊んでみる。

課題を知ったから、その土地をもっと好きになる。  
出会ったばかりの仲間だから、素直に話せることがある。

思わぬトラブルだって、  
きっと忘れられない思い出になるから。

キミも、日本のどこかの仲間と一緒に  
ちょっと世界を変えちゃう冒険にでかけませんか？



# 沖縄 久米島

## Okinawa Kumejima

青い海の島に鳴り響く

ちがいをまるごと

楽しむ旅.

沖縄本島から西へ約100kmに位置する久米島。

島の東側には約8kmにわたって

サンゴ礁が美しい景観をつくっています。

2月は、サトウキビの刈入れ、クルマエビや海ブドウの

出荷など南の島ならではの生業の繁忙期。

島生まれ、島育ち、島にルーツを持つ、島に魅せられた、

様々な人が新しい活動を展開しています。

生業のお手伝いをしながら、

音楽も取り入れた交流を通して

この島の多様性をまるごと楽しんできました。



# 久米島レポート

2023.02.24-02.27



2月、関西空港。出身地も大学も学年も育った環境もバラバラの12人の「旅するボランティア」が始まった。



久米島空港に到着すると、むわっと暖かい空気を肌で感じる。

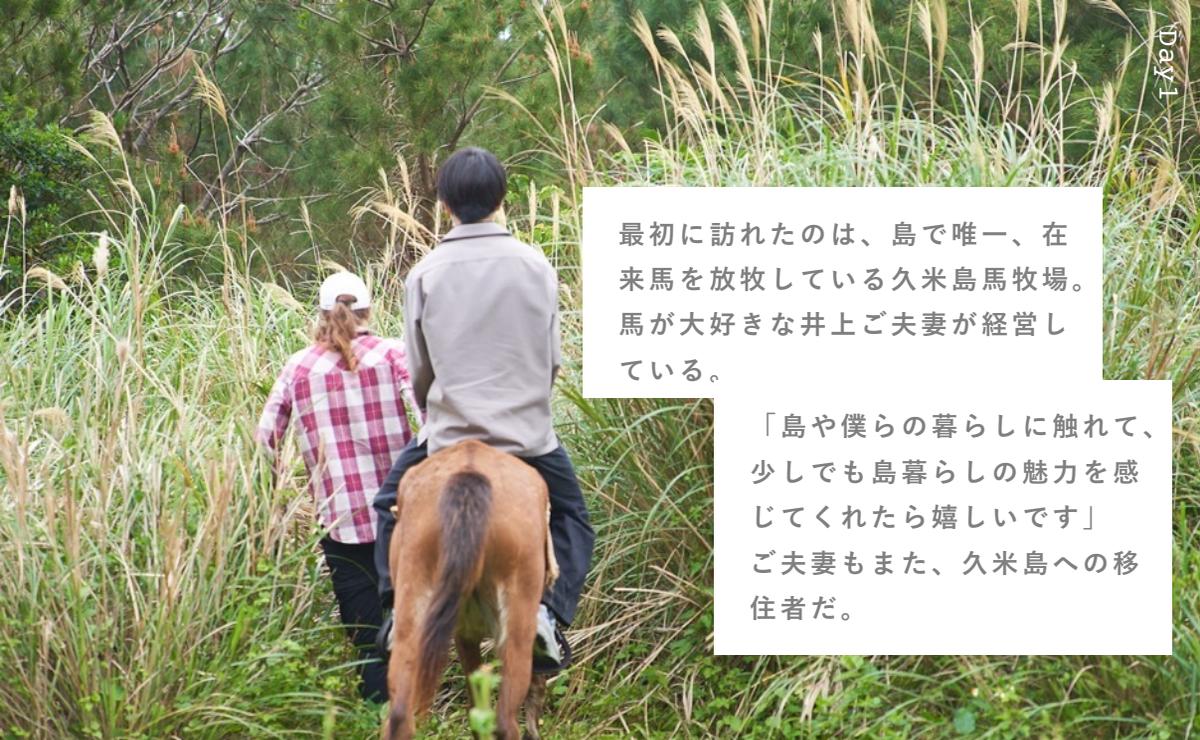


「私は20年前に、埼玉から久米島に嫁いできたんです」とバスの運転手さん。窓の外には見渡す限りのサトウキビ畑と青い空に青い海が広がっていた。

久米島で初めての食事は、島そば。  
もちもちとした麺に鰹出汁のスープ、  
そこに特大サイズのラフテーがたま  
らない。



一緒にご飯を食べると、自然と会話も盛り上がる。  
店主さんは「久米島の魅力は人ですよ〜！」と元気よく  
送り出してくれた。その意味を、あとからしみじみと感  
じることになる。



最初に訪れたのは、島で唯一、在来馬を放牧している久米島馬牧場。馬が大好きな井上ご夫妻が経営している。

「島や僕らの暮らしに触れて、少しでも島暮らしの魅力を感じてくれたら嬉しいです」  
ご夫妻もまた、久米島への移住者だ。



沖縄では畑の荒廃が進んでいるそう。

馬を小屋で飼育するのではなく、放牧することで、馬が草を食べ、畑が綺麗に保たれる。馬も、島の人もハッピーな久米島の知恵だ。

みんなで畑の草刈り。  
久米島に来て  
初めてのボランティア活動だ。



自分たちが刈ったばかりの  
草を牛が美味しそうに食  
べている。ここでは、人間と  
動物が当たり前のように協  
力しあって生きている。



楽しみにしていた乗馬体験。茂みの奥から現れた馬の親子が、驚く私たちの緊張を解くように、自然に近くに寄ってきてくれる。こんなに近くで馬と触れ合ったのは、はじめてだった。





この島ではかつては「一家に一馬」いたという。一緒に暮らすことが当然で、物や人を運ぶといった今の車の役割を、馬が全部やっていた。働き者だ。



最後に、福太郎さんが話をしてくれた。「馬は速く走れば走れるほどいいんです。敵から逃げられるから。同じように人間も逃げたっていい」「僕は、かつて自分らしく生きられない、やりたいことがない、仕事も続かない…。そんな日々だった。逃げて逃げて、やっと今の暮らしにたどり着いたんです。そうやって前に進めることもあると思います」

夜は、輪になり太鼓を叩きあうドラムサークル体験。楽譜やルールはない。音とリズムだけで、みんながひとつになる即興音楽だ。



「1人ずつ太鼓を鳴らし、どれだけ速く1周できるかチャレンジしてみよう！」  
そうやって始まった、タイムアタック。  
「隣の人の手の動きが見やすいように全員が右を向いてみたらどう？」  
「円陣を組んで、カツを入れよう！」



そうやって見事、2秒台を達成！  
みんなで同じ目標に向かって取り組んだから、達成できたこと。  
嬉しくて思わず声が出たのは、久しぶりだった。

ドラムサークルを教えてくれたゆきさんは、耳が聞こえない。しかし、音を出し合い、視線やリズムが重なり合うたびに、お互いのことを少しずつ理解し合えたように感じた。



お別れの時、ゆきさんが1人1人にメッセージ付きのお菓子とコーヒー、そしてハグをプレゼントしてくれた。少し照れくさかったけど、音楽や行動で私たちに真っ直ぐ向き合ってくれたゆきさん。気持ちを伝える方法は、言葉だけじゃないことを教わった。



2日目。島で唯一黒糖を作っている山城葵さんのサトウキビ畑へ。  
慣れないカマとオノを手に取り、自分の背丈以上のサトウキビが  
生い茂る畑のなかに入っていく。





サトウキビを刈り、葉を削ぎ落としていく。  
夢中になって作業をすること、3時間。





軽トラ1台におさまりきらないくらいのサトウキビを収穫できた。



「みんなのおかげで、いつもの3倍以上の量を収穫できました」  
嬉しそうな顔でそう言ってくれ、私たちも嬉しくなった。



その後は、ゆんたく市場へ。ここは、島の農産物直売所であり、海を見ながら昼食をとることもできる。裏の作業場でサトウキビを黒糖にする。黒糖は、湿度やサトウキビの状態など、そのときどきによって味が違うらしい。



压榨機でサトウキビの汁を絞り、絞り出した汁と石灰を煮詰めると飴状に。乾かすと、黒色に固まって黒糖のできあがり。

自分たちが刈ったサトウキビから作った出来立ての黒糖をパクッと一口食べる。自然な甘さが口の中に広がり、一日の疲れが一気に吹き飛んだ。





夜は、島の人たちと集まって、みんなでご飯を囲みながら交流会。

島の人たちは、昨日初めて来た私たちを、まるで家族のようにあたたかく迎え入れ、分け隔てなく話してくれた。

心があったかくなり、優しい気持ちになる。



3日目は朝から夕方までサトウキビ刈りのお手伝い。





丸一日、外で身体を動かしたのは  
久しぶりだろう。サトウキビが生  
い茂っていた畑も、一日を終える  
ころには周囲が見渡せるよう  
になった。

「え、もう終わり？」そんな声がこぼれる。  
島の人と、仲間と作業をしているとあっという  
間に時間が過ぎていった。心地よい疲労が、全  
身を包みこむ。



ボランティアは支援というイメージだったけど、実際は島の人々が感謝を伝えてくれたり、気にかけてくれたり、逆に力をもらってばかりだった。旅行者ではなく、仲間になることで、この土地も人も、大切な存在になった。

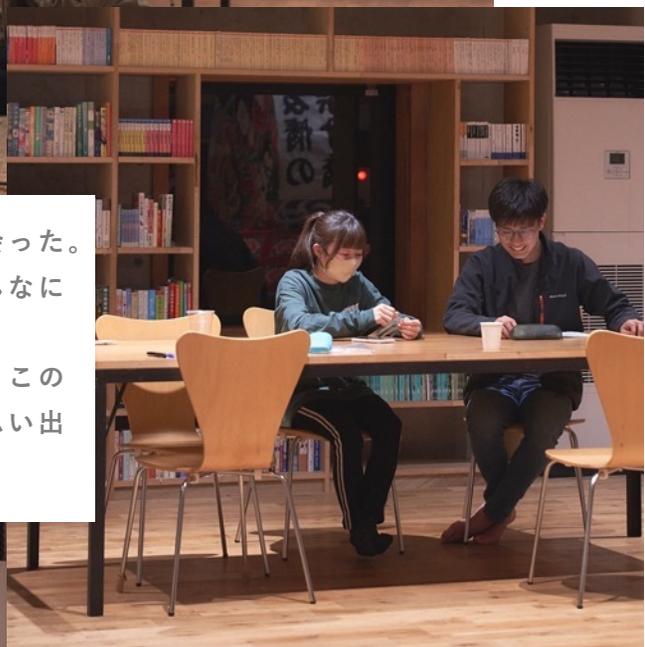


最後の夜は、メンバーだけで語り合った。  
自分の知らない世界で生きてきた12人。  
みんなに出会えたこともまた、自分の世界を広げてくれた。一昨日出会ったばかりなのに、別れが来ないでほしいと願う。





そして、自分の新たな一面にも出会った。  
あの日一歩踏み出した勇気が、こんなにも  
いろいろな景色を見せてくれた。  
宿から見えた満天の星空と一緒に、この  
気持ちも忘れないように、そっと思い出  
を胸にしまう。





最終日は快晴。青い空にテンションがあがって、みんなで写真撮影。



飛行機の時間まで、久米島の自然を堪能する。魚が泳いでいるのが目に見えるほど久米島の海は透明で光り輝いていた。



海中道路をバスで渡った先にあったのは、奥武島にある国指定天然記念物のスポット”畳石”。五角形や六角形の岩が広がっていて、中にはハート型に見える岩もあるそう。



登武那覇城跡は、あまり知られていない絶景スポット。島人の憩いの場となっていて、奥武島、オーハ島、イーフビーチ、ハテの浜を一望できる。

海を眺めてぼ～としたり、  
海の生物をとってみたいり、  
ハートの石を探したり、  
のびのびと自由な時間を  
満喫した。





ご好意で、FMくめじまラジオ放送局へ出演できることに。  
島の人たちに感謝の想いを届けられるように、4日間の出来事や想いを語った。



いよいよ帰る時間。空港で初めて  
会ったメンバーの顔つきとは全く  
違っていた。

久米島空港を後にするとき、思い  
出すのはこの島で出会ったたくさ  
んの人たちの笑顔だった。

「いつでも帰ってきてね」  
島の人たちは、初めましての  
私たちを温かく迎え入れてく  
れた。またこの島に帰ってき  
たい。

空の上から見た久米島に思い  
を募らせ、私たちはまた新し  
い旅に出る。





## あすみん

(大阪府出身・18歳)

参加したきっかけは？

Instagramの広告で流れてきて「なんだか面白そう」「旅に出たい」と思ったのがきっかけでした。私は、精神的な問題で高校に通えなくなってしまった経験があります。「理想の高校生活を送れなかった」というのが悔しくて、泣いてばかりのときもありました。そんな経験から、自分のことをちゃんと知りたいと思ったんです。旅するボランティアは、初めていく場所で新しい出会いがたくさんあることに「何か自分を変えられるきっかけになるかも」と思って参加しました。

この旅を通じて気づいたこと

「今の自分が幸せであること」に焦点を当てて暮らすことの大切さを実感しました。島の人たちは「何をしたら、今の自分が幸せになれるのかな？」と考えてやりたい事をしているように感じました。それを1人の力だけではなく、周りの人と助け合いながらやっていることがすごく素敵だと思ったんです。自分のことも人のことも否定せず、今あるものに目を向けて暮らしていくこと自体が、すごく幸せなことだし、豊かな暮らしなんだなと肌で実感しました。



## 旅で変わったこと・得たこと

自分が過去に選択したことに対して「間違っていなかったんだな」と思えるようになりました。私はこれまで高校に通えなくなったり、水泳を諦めたりしたことがあります。これらが全部「人生からの逃げ」なのかなと思って自分を責めていたこともありました。でも、この旅を通じて島の人たちと交流する中で「あの時の自分の選択は、間違いではなかったんだ」と思えるようになったんです。いろんな生き方があっていいし、いろんな大人がいて、ありのままの自分を受け入れてくれる環境がある。だからもっとこうやって旅に出たいなと思いました！

## 応募を迷っている人へ

今の自分に不満があったり、何かモヤモヤしていたり、自分のことがわからないと思っている方は、ぜひ参加してほしいです！私がこの旅でいろんなことに気づけたように、何かのきっかけを掴める機会だと思います。かけがえのない経験と新しい出会い、仲間が待っているので、迷っているならぜひ応募してみてください。



参加したきっかけは？

大学に入って1年がたったけど、ただ講義を受けてバイトして遊んでの繰り返しで、「何か新しいことに挑戦したいな」と思ったのがきっかけです。もともといろいろな人と関わるのが好きで、友達に誘われてゲストハウスに行ったりしたこともありました。今回は初めて会う11人の仲間と4日間過ごすことも、とっても楽しみで参加しました。

この旅を通じて気づいたこと

ボランティアを初めて経験しましたが、ボランティアに対する考え方が少し変わりました。「ボランティア＝困っている人を助ける」イメージが大きかったのですが、逆に僕ら側が受け取るものが多くて、何よりも楽しいなと感じました。支援というより、お手伝いに近い感覚です。もっと他のいろいろなボランティアにも参加してみたいなと思えました。

しの  
(京都府出身・19歳)



## 旅で変わったこと・得たこと

この旅するボランティアに参加したことは、僕の中で1つの成功体験になったと思います。はじめは応募するのを少し躊躇してしまっただけ、あの時勇気を出して本当によかったなと思っています。

なぜなら、一歩踏み出すことで世界がどんどん広がったからです。今回の経験をもとに、今後やりたいことがあったら、どんどん挑戦していこうと思います。



## 応募を迷っている人へ

少しだけ勇気を出して、一歩踏み出してみてください！最初の一步はエネルギーが必要だけど、その後は新しく楽しいことばかりです。ボランティアをしたことがない人でも、旅に出たことがない人でも、大丈夫です。必ず何かが変わるきっかけになるとと思います！





あまちゃん  
(愛知県出身・20歳)

参加したきっかけは？

私は背が低いというハンディキャップがあります。小さいころは気にならなかったけど、大学生になってアルバイトをする時に「背が低い」ことが理由で不採用になったことが何度ありました。そこで「背が低いことでやりたいことができない」と感じるようになったんです。そうやって消極的になり、人見知りをするようになった自分を変えたくて、今回の旅に応募しました。

この旅を通じて気づいたこと

自分自身が、初対面の人に対して、勝手にその人の第一印象を決めて接していることに気づきました。これは一緒に参加したメンバー11人と初対面で4日間過ごしたからこそ気づけたことです。自分が勝手に壁を作ってしまったことに気づいて、もっと自分から話しかけてコミュニケーションをとることが大切なんだと学びました。



### 旅で変わったこと・得たこと

人のあたたかさや優しさにたくさん触れて、自分も「人の心をあたたかくできる人になりたい」と思うようになりました。島の人と一緒にご飯を食べたとき、初対面なのに家族のように接してくれて、それがすごく心地よかったです。また、自分のハンディキャップを気遣うようなメンバーの声かけや思いやりにも触れて、自分もそんなふうになりたいなと思いました。



### 応募を迷っている人へ

旅に行くことで、普段の生活環境では気づけないことや感情に、必ず出会えると思います。私が1番驚いたのは、「時間の流れ」でした。島で過ごしていると時計を見るのが減り、時間に追われる感覚がありませんでした。旅に行ってみることで、いろんな意味で沢山のギャップを感じると思うので、迷っているならぜひ経験してみたいと思います！

# 参加者の声

新しいことにチャレンジしてみたかったから

「何か自分を変えられるきっかけになるかも」と思ったから

今回どうして参加したの？

旅行に行きたかったから

新しい友達が欲しかったから！

FMくめじまでの経験。公共の電波で自身を発信したことが大きな一歩になった。

夜に仲間と眺めた星空や壘石の絶景

何が印象的だった？

ドラムサークルをしたこと

サトウキビ収穫から黒糖を作るところまで、一連で出来たこと！

最高に楽しく、  
これからの人生の選択肢を  
増やしてくれる

知り合いのいない  
新しい世界へ飛び込み、  
様々な人と交流を深めた  
ことで、自分に自信を  
つけることができた！

これから参加する人に  
伝えたいことは？

ボランティア活動は自分自  
身も新たな道を見つけ成長  
することができる。

費用がほとんどかからな  
いためチャレンジがしや  
すい。自分の力だけでは  
味わえない経験ができる。

普通の大学生活では出会えな  
い、地方で農業をしている人  
や、学生に出会えたことが楽  
しかったし、いい機会だった。

# Map

● 体験スポット

● 立ち寄りスポット



1km

Okinawa Kumejima

# Program

## Day 1

久米島空港到着

馬牧場での乗馬体験など

ドラムサークル体験

## Day 2

サトウキビ刈り

黒糖作り体験

自由時間

島の方々との交流

## Day 3

サトウキビ刈り

参加者同士でのふりかえり

## Day 4

島内観光（壘石、登武那覇城跡公園）

ラジオ出演

旅の終わりのふりかえり

久米島空港出発



旅するボランティア

Report vol.3

沖縄 久米島

Okinawa Kumejima

青い海の島に鳴り響く  
ちがいをまるごと楽しむ旅。

Photo by Rinako Kitahatake  
Writing by Natsumi Sugeta

